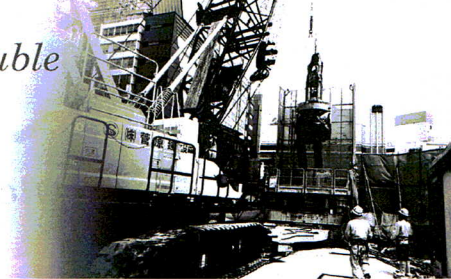


全旋回オールケーシング工法

Rotary casing



既存地下外壁引き揚げ



既存地下 2F 基礎引き揚げ



既存地下 3F 基礎引き揚げ

超硬ビット付きのケーシングチューブを回転させ、コア状に切り取った地中障害を引き上げる工法です。撤去完了後は改良土・流動化材等で埋戻すことにより、後工程をスムーズに行うことが可能になります。既存躯体の種類、施工場所により機械を選択することによる幅広い選択が可能です。

特徴

- 回転圧入したケーシング内を掘削するため、周辺地盤への影響が少ない。
- 低振動・低騒音での施工が可能。
- 地表面に出たケーシングで鉛直性を管理できるため、高精度での施工が可能。
- 撤去した地下躯体をそのまま引き上げるので目視で確認することができる。

本工法で引き揚げた既存地下鉄骨柱



地中障害撤去

施工箇所の整地
杭芯確認
敷き鉄板養生

芯出し鉄板に合わせ
ジャッキを据えつける

中堀(ハンマー掘削)
障害切断・破碎
障害排出・残土掘削
所定の深度まで繰り返す
地下水位まで注水

ハンマーにて障害
引き上げ撤去

機械高を基準高
として検尺テープにて検測する

圧入初期段階で
ケーシングの鉛直精度を確保する
下げ振りにて
2方向から確認

ハンマー掘削

バックホー又は
ハンマーグラブにて
埋め戻し土を投入する

機械高を基準高
として検尺テープにて検測する

下げ振り
直角2方向

地由隨軍

埋め戻し土改良

クレーン

残土攪拌

固化材

This diagram illustrates the process of soil improvement using a crawler excavator. The excavator is shown mixing residual soil (残土攪拌) with solidification material (固化材) to improve the soil (埋め戻し土改良). The excavator is labeled as a crawler (クレーン).

檢尺一

▽基準高

鍾